

平成30年度第2回図書館専門委員会会議録

- 1 日 時 平成31年3月28日(木) 午後2時から午後4時まで
- 2 会 場 愛知県図書館 5階 中会議室
- 3 出席者 委員9名、館長、副館長、資料支援課長、サービス課長、各グループ課長補佐7名、文化芸術課職員1名、その他県図書館職員(事務局)3名
- 4 傍聴者 なし
- 5 取 材 なし
- 6 発言要旨 以下のとおり

【開会】

館長

本日の専門委員会では、当館の基本的運営方針である来年度以降の5年間の行動計画案について審議をいただきたい。昨年6月には、この会議において骨子案について御意見をいただいた。委員の意見をはじめこれまでの5年間の活動の反省、県民の皆様からの御意見をふまえて行動計画案を作成した。併せて当館の新しい取組みについても報告させていただく。県図書館が明るくなった、イベントが楽しかったという利用者の方からの言葉が何よりの励みになっている。引き続き利用者の皆様に喜んでいただける展示やイベント等の開催に努めていきたい。また、新しい取組みに対しても御意見をお願いしたい。

社会の変化著しい今日、都道府県と市町村のあり方についても行政サービスの面でさまざまな議論があるが、図書館もその中の一つと認識している。今後も市町村との適切な役割分担をふまえて図書館活動を発展させたい。忌憚のない意見をお願いしたい。

【議題1 愛知県図書館の基本的な運営方針 後半5年の行動計画】

資料に基づき「愛知県図書館の基本的な運営方針 後半5年の行動計画」について説明(副館長)。

梶原委員長

ただいまの報告について御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

岡田委員

まず、資料の中の字句の意味の確認をしたい。「新たな方針に基づく資料収集の重点化」とあるが「新たな方針」の内容の説明をお願いしたい。次に後半5年の行動計画案の<取組1>の運営指標Ⅱの「利用者の満足度」に関してだが、その調査のための来館者アンケートは毎年実施するのか、時期は決まっているのか。

資料支援課資料グループ補佐

収集の方針については、平成29年度のしなやか県庁創造プランに基づいての取組みの中で検討し、平成30年1月に市町村立図書館への協力貸出についてのアンケートを実施した。その結果を受けて平成30年4月に当館の資料収集方針及び資料選択基準も併せて改正した。新たな方針とはこの資料収集方針等のことを指している。この中で、ものづくり文化資料、地域資料等を重点収集する資料として規定した。

総務課企画グループ補佐

利用者の満足度を調査するためのアンケートは毎年度、後半期に実施している。満足度は昨年度は81パーセント、今年は84.5パーセントの満足を得ている。もう少し高く90パーセントをめざし、利用者に満足いただける図書館でありたい。

伊藤委員

運営指標について、定量的な指標は毎年出ているが定性的なものが何かできないかという話を以前したことがある。サービス面でどうだったか、がなかなか出てこないところが利用者の立場としてももどかしい。色々なところで効果が上がっている、又は十分ではなかったという数字的なことはわかるが、司書がどのように利用者にアプローチして頑張っているかについては表れてこない。今持っているデータの中で出来ることか。

次に前半5年の状況のうち、「インターネットアクセス数」はトップページのアクセス数になっているが、実態を反映していない可能性がある。実際にはOPAC等違うルートからホームページにアクセスするほうが多いのではないか。後半の5年間の行動計画案の〈取組1〉の運営指標Ⅲのアクセス数も同様である。運営指標にトップページのアクセス数を掲げる事に意味があるのか疑問である。

また、運営指標の項目が必ずしも行動目標と1対1になっていないがそれはどうしてか。例えば〈取組2〉の行動目標⑤に対しては運営指標があるが、行動目標⑥には対応するものがない。

総務課企画グループ補佐

入館者数やアクセス数などの定量的な指標に対して、利用者満足度を定性的なものとして見ているが、ご指摘の通りさまざまな指標が考えられると思う。他に定性的なものとしては〈取組3〉の運営指標のV「主要紙での評価」でPRの効果について測定することで定性的な分析も交えている。

「インターネットアクセス数」については、前半5年ではトップページのアクセス数としていたが、後半5年では蔵書検索のアクセス数に変更して指標設定したいと思っている。検索履歴を確認すると、トップページを経由しないで蔵書検索にダイレクトに行く件数が多く、だいたい170～180万件前後で推移しているので蔵書検索アクセス数を180万回以上を指標として設定したという経緯がある。携帯やスマートフォンでのアクセスの割合が増えていると感じている。

運営指標の項目の数と行動目標の数が対になっていないという点については、例えば〈取組2〉のように直接的には協力貸出の冊数を運営指標としたが、それも含めた形で市町村立図書館の運用の支援が背景としてあるので、行動目標の⑤と⑥の代表的な数値として協力貸出の冊数を運用指標として設定した。取組1から4の各行動目標の達成を目指して活動することで、入館者数や来館者の満足度が上がると考えている。一対一で対応していないが全体として行動目標を達成していく中で運営指標のそれぞれが連動して右肩上がりになっていけばと考えている。

伊藤委員

取り組みとその下の行動目標には重複しているところがある。例えば市町村立図書館の支援については人材育成支援もあれば資料面での支援もある。また、「すべての県民への図書館サービスへの提供」は〈取組2、3、4〉も含んでいる。こうした重複を整理したほうが評価の指標もきれいに整理されるのではないか。

インターネットの件では最近ツイッターで充実した情報を流しているのでも、それも評価の中にも入ってくると良い。ホームページだけではなくSNSの取り組みとして是非入れてもらえ

ればよい。

総務課企画グループ補佐

〈取組1〉とその他の〈取組2、3、4〉については、基本的な運営方針が10年間の大きなフレームワークとなっている。重複しているきらいがあるので第2期の基本的運営方針の策定をする際にはそれをふまえてきちんと整理したい。

ツイッター、フェイスブックについても評価に含めるかの検討はしたが、補足が難しく運営指標として設定するのは難しいので見送った。今後の検討課題としたい。

館長

指標として取り上げるのは難しいかもしれないが、具体的な事業計画の中で取り上げたい。リツイート件数など何を指標とするかは議論があるが、行動目標⑧のSNSの活用というところで、どのような評価をいただいているかを報告できるよう検討させていただく。

梶原委員長

私も〈取組3〉の行動目標⑦と⑧は適当な場所にそれぞればらしていけるのではないかと思いますので、今後将来を見据えて検討いただければと思う。

中井委員

〈取組1〉に「すべての県民」とあるが、愛知県図書館の利用者のことしか言っていないのではないか。愛知県民一人当たりの貸出冊数は全国で何番目くらいなのか。愛知県図書館だけが頑張るのではなく、各市町村立図書館にも頑張ってもらえば、結果としては貸出冊数に現れてくるのではないか。貸出冊数だけではないと思っているが、全国平均よりは上なのかどうか、そういう視点も持っていただきたい。すべての県民、県内全域というのであればそういう目標を立ててもよいのではないか。

レファレンス件数は数値としてあがってこないのか。レファレンス件数は多いと思うが指標化するのも大切な事ではないかと思うが書かれていない。レファレンスを指標化することにも取り組んでいただきたい。

サービス課長

県全体の貸出冊数はおそらく『日本の図書館』等で数値としては把握できる。確かにサービス指標そのものが最終的には愛知県全体の図書館サービスとしてどうつながってくるのかは重要な視点なので改めて回答させていただきたい。

また、レファレンスの件は指標としては取り上げていないが統計として件数は把握している。2月現在で前年度比106パーセントで、数値的には伸びている。実際に当館のレファレンスの水準や質は国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの登録件数や参照件数などで評価はできるが、現在登録は滞っている。単なる件数だけではなく外部的な評価も織り込みながら、レファレンスの質そのものをどうやって上げていくかを踏まえた上で事業計画の中で指標化したい。

岡田委員

公共図書館だけではなく専門図書館など色々あるので、公共図書館だけで都道府県単位で比べるのは難しいのではないか。

中井委員

行動目標⑨の「ものづくり文化資料」とはどのようなものか。工芸品や製造業に関する資料

なのか、イメージがあるなら教えて欲しい。

資料支援課資料グループ課長補佐

本県で盛んな自動車産業、航空宇宙産業などの技術開発に関するものや産業の歴史についての資料がある。その他に関連企業の社史、団体史や産業振興に役立つ、ビジネス支援的な要素を含む資料もふくまれる。

中井委員

企業がそういった資料は相当持っているのではないかと考えている。愛知県にある企業の社史や専門雑誌など積極的に集めるとよいと思う。

小林委員

先日図書館の「手に取る書庫内図書ツアー」に参加した。新聞にも掲載され、私の周りでも見たという声があり非常に良かったと思う。＜取組3＞の運営指標「主要紙での評価」も考慮したうえでの取組かと思うが、今後も実施していただきたい。

伊佐治委員

「すべての県民」という言葉を聞いて思ったことだが、外に出ていくという事ができないのか。例えば芸文のコンサート会場で関連図書を展示する等、県図書館の資料がたくさんある、こんな資料のものがあるとPRできるのではないか。

総務課企画グループ補佐

行動目標⑦の「主な取組」にあるように、打って出る形の活動も進めていきたいと考えている。県芸術劇場、県陶磁美術館、県の他部局と連携して企画展示等を積極的に実施したいと思っている。

岡田委員

私自身は図書館サービスの根幹は選書とレファレンスとっており、それを見据えた行動計画であるべきと思っている。県図書館の一番大きな責務は市町村立図書館への支援ではないか。県民全体というのは市町村立図書館を支援することで広がっていくものなので、県図書館単独で、すべての県民にサービスをするというのは到底無理な話であり、市町村の図書館をどう支援していくかに重点をおくべきである。

その裏づけになるのは、協力貸出にしても、レファレンスにしても、やはり全ては資料費が底辺にある。資料1の「前半の5年間の状況」の目標未達成の要因として「資料費が減少する中」と記載があるが、いかに資料費を減らさないか、あるいは増やすことをもっと考えていただきたい。運営指標として資料費をいくら増やすといったことは書けることではないが、資料費を増やすことで、年間の全体の相互貸借の4万8千冊の中で、県図書館が市町村立図書館へ貸し出す協力貸出の冊数の割合を増やす。相互貸借の半分以上が、県図書館からの協力貸出になれば、利用者の手元にわたるタイミングが早くなるのでサービス向上にもつながる。重点を置いて行動し、アピールするのが良い。

前回の図書館専門委員会でも申し上げたが、国立国会図書館のレファレンス共同データベースの愛知県内の登録件数は、去年の5月と今日の登録件数を比べると1件も増えていない。サービス課長が言われたように、職員のスキルアップも含めてこれに登録することがレファレンス対応能力の向上やモチベーションを高めることになると考えており、安城市は積極的に取り組んでいるところである。

『日本の図書館』の都道府県図書館別の県民一人あたりの貸出は福井県が1位となっている。

ニュースを見て見学に行った。良い図書館ではあるが、県図書館単独で貸出を増やすことには限界があり、いかに市町村立図書館を県図書館が支援するかのほうが重要である。最も気になるのは住民人口1人あたりの資料費がワースト3のままなので、愛知県は人口が多いから4千万円の資料費は住民一人当たりになると少ないのは仕方がない、では済ませてはいけない。資料費の底上げをしていただきたい。資料費やレファレンスに関する指標を取組の中にもう少し文言として具体的にに入れて欲しい。

サービス課長

レファレンス共同データベースに関してはご指摘の通り、登録件数は増えていない。昨年度、企画展を中心に新しい事業を進める中でルーチンの仕事がおろそかにならないかという指摘をいただいた。レファレンスについては、件数自体は伸びていても外部から見たときに質としてどうかということがある。以前はレファレンスの事例を1つ1つ再吟味して館内でブラッシュアップして登録する質まで高める作業を行っていた。その作業をする中でレファレンススキルが上がっていくと考えている。それも含めて登録件数だけでなく登録事例の参照件数なども今後は計画の中に組み込んでいきたいと思っている。

資料支援課長

市町村立図書館への協力貸出については、県図書館の重要なサービスと認識している。相互貸借全体の中での県図書館から市町村立図書館への協力貸出の比率を増やすことについても重要と考えている。平成30年度に資料収集方針を改訂し、市町村立図書館が購入しない資料を重点的に収集するという方針に変えた。今後も市町村がどのような資料を要望しているか研究し、協力貸出冊数を増やす方法を検討したい。

館長

協力貸出の割合を高めていくことについては、具体的な活動計画で割合が出る形で取り組んでいきたい。総数に対して県の貸出数をどれだけ増やすかの視点を加えた計画にする。

梶原委員長

資料費についてはどうか。

館長

資料費については昨年6月にも指摘をいただき耳が痛いところで、予算要求もしたが確保できていないのが現状である。今日いただいた御意見をふまえてしっかり要求していく。

山田委員

資料2の<取組2>協力貸出に関して、前回の図書館専門委員会で貸出冊数が増えるのばかりが良い事ではなく、貸出が多いということは地域の図書館が充実していない事を意味するという指摘もあった。そこをどう考えるか、どういう本が流通しているのかを考えねばならない、という意見を出したが、データとして我々にいただけるものはないか。

総務課企画グループ補佐

参考資料1の3ページ目に概要がある。1か月分の協力貸出のデータを抽出したところ、和書が80パーセント、価格3千円未満の本が7割を占めており、専門書や高価な図書より一般図書のほうが需要が高いことが推測できた。協力貸出の支援は拠点図書館の役割ではあるが、搬送量が著しく増加した場合には費用負担の在り方も含めて考えていきたい。

山田委員

もう少し詳しいデータはないか。資料には「和書」とあるが、ジャンルや値段についても3千円未満かどうか以外も調べた方が良く、貸出の要望のあった本はその図書館になかったから申込みがきたのか、あるいは貸出中で手元にないからかという状況も含めて、もう少し詳しく調べた方が良く、それをしっかり調べていくことが今後どうしていくかを考える材料となる。今回調べたことは大きな前進ではあるが、もっとこうした点をしっかり調べると良い。1つの方向として都立図書館のように直接は貸し出さない専門図書館になるのがいいのかそうでないのか、県図書館としても今後の方向を考えていく上で、流通の中身をまず掌握することが大事だと思うので、もっとしっかり中身を調査していくことが大事だ。

総務課企画グループ補佐

今後も調査を継続し、データを整理したい。

伊佐治委員

地域資料を重点的に収集することに関して述べさせていただく。私も先日「手に取る書庫内図書ツアー」に参加した。それまで何回調べても見つからなかった郷土資料を見つけることができて嬉しかった。郷土資料の特に古い資料は現物を見ないとタイトルだけでは内容がわからない。探していること、例えば踊りの事が全く別のジャンルの本の中に詳しく書かれていたりする。研究者には書庫を見てもらうのが一番よいと思うが、難しいと思うので、収集する際に探しやすい、情報を本当に探したい人が探せる登録の仕方を望みたい。

山田委員

同じ意見である。今の検索サービスでは本のタイトルしか出なくて、全集がたくさん並んだりする。アマゾンでは本に関する素人から専門家のコメントまでさまざまな情報が掲載しており、中には貴重な情報もある。情報全部を入れるのは無理だとは思いますが、ユーザーが情報を付加できるようなサイトなりHPのつくりがあるとよいのでは。閉架式で書庫に入れないならこういうものも良いと思う。

総務課企画グループ補佐

参加者みなさんの好評をいただいたので書庫の本を見ていただく企画は、今後も続けていきたいと考えている。本と利用者を結びつける試みは10年ほど前に、利用者からの本へのコメントを掲示する「こんな本があるよ」という企画をしたことがある。こうした以前の例も参考にして、本と利用者を結びつける方法を検討したい。

小林委員

郷土資料について確認したい。先日名古屋城の二の丸庭園の整備計画を調べたくて来館したが無く、直接名古屋城に連絡したら鶴舞中央図書館が所蔵していた。名古屋では県図書館と鶴舞中央図書館が双壁をなす蔵書数を持つ図書館と認識しているが、名古屋市図書館と県図書館が連携しており相当数の蔵書数になると考えてよろしいか。

サービス課長

本来は当館で鶴舞中央図書館所蔵であることまでお調べするべきだった。名古屋市との連携はこれまでも取り組んできた。名古屋市の情報については鶴舞の方が詳しいのは確かだが、ここへ来れば県内の市町の情報も俯瞰して見られる事にも重きを置いて、地域資料の収集は進めていきたいと思っている。

小林委員

金山の名古屋都市センターまちづくりライブラリーにもかなり郷土資料がそろえられているが、県図書館との連携はあるか。

サービス課長

まちづくりライブラリーとは、今のところ横断検索システム「愛蔵くん」には参加してもらっていない。こうした地域情報の専門図書館との連携についても努力していきたい。

伊佐治委員

10年ほど前にサイパン戦のことを調べたことがあり、その時確かに鶴舞図書館にないものが県図書館にあり、県図書館にないものが鶴舞図書館にあるということが確かにあった。

田中委員

県立学校など歴史の古い学校に貴重な資料があると思うが、それと県図書館とがどのようにつながっているのか。先日県立学校のホームページの中に学校図書館の情報を載せて県のほうから見られるようにリンクさせる話があった。ホームページに図書館の情報や催しを載せてもあまり興味をもたれないのでは。それよりはそれぞれが持っている蔵書、特徴のあるものが検索できるとよい、という話を学校図書館関係者同士で話したことがある。ただ現実のひとつの学校の蔵書をデータベース化して検索できるように管理できている訳ではないし、コンピュータのソフトを買い替えるお金もないが、包括的に貴重な情報を共有できればいいなと思う。

梶原委員長

県立学校との連携について何か御意見がないか。

資料支援課長

ここ数年から始まったばかりで、今後どう発展させていくかは考えなければならない。まずは県図書館の蔵書を高校で利用していただくことから始めている。今年は8校で、来年度以降拡大していきたい。

館長

学校が所蔵する貴重な資料を県民が共有できるかということだと思うが、所蔵資料を紹介できるホームページをうちで作成するのが良いかと思う。ただ、各学校の協力や教育委員会の協力がなければできないので、相談してすすめていきたい。

伊佐治委員

今の話を私立大学にも広げられたら良いと思う。

館長

大学図書館についてもどういった形ができるか、検討したい。

岡田委員

運営指標Ⅲの横断検索による蔵書のアクセス件数はあまり意味がないのでは。直接県図書館にアクセスする意図がなくても増えていく数字なのでは。別に適切な指標があればそれに変えた方がよいのではないか。

総務課企画グループ補佐

指標は横断検索からではなく、直接県図書館の蔵書を検索するアクセス数にしている。

中井委員

行動目標①の「多様な利用者のそれぞれの居場所となれる図書館」についてだが、ヨッテコのようなスペースは良いと思う。昨今滞在型の図書館が話題になっており、図書館で色々な過ごし方が出来、行動の選択肢が広がっている。座席数を増やすだけでなくヨッテコのようなスペースや個人閲覧席など座席の種類、形態も増やすことを考えて欲しい。

サービス課長

ヨッテコが出来てから、グループで使う人が増え、中高校生の利用が顕著である。窓ぎわの席は1人で利用する方もいるし、それをどう展開していくかは十分研究し、居心地の良い図書館にしていきたい。

伊佐治委員

ヨッテコは素敵なスペースである。ららぽーとの蔦屋書店では朝から若い子がコーヒーを飲みながら本を読んでいる。本を読む姿が格好いいというアピールもできるのかもしれない。

田中委員

安城市のアンフォーレを見ると多様なスペースが沢山あり、それぞれの使い方がされていてうらやましい。富山市立図書館も工夫がされており、新しい図書館の使われ方のモデルの一つなのかと思う。地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供がうたわれており、資料プラスそこで話し合いができる場所の提供があると、図書館が住民の暮らしの中に生きてくるのかと改めて思った。すばらしい図書館が増えればと思う。

総務課企画グループ補佐

従来は図書館内では飲食不可であったが、ヨッテコでは軽食ができるようにした。5月からカカシカフェもオープンし、座席や閲覧机も今後増やしていこうと思っているので利用者の方に使ってもらいたい。

梶原委員長

いただいた御意見、御質問については、基本的には具体的な計画や「主な取組」の方で対応することとし、議題である後半5年の行動計画案については提案どおり了承ということでしょうか。

「異議なし」

【その他】

資料に基づき「平成30年度の新しい取組」について説明した（副館長）

梶原委員長

御意見があれば、御発言をお願いしたい。

山田委員

「手に取る書庫内図書ツアー」は私も当日見学したが、すばらしかった。今後も継続的に、より人数を増やして実施して欲しい。高校生、中学生を対象にすると喜ばれるのではないかな。

画期的な企画だったと思っている。

富田委員

バックヤードツアーの話だが、子ども読書活動推進大会の後の館内ツアーはとても好評である。普段見ることのできない書庫の見学ツアーは継続していただきたい。

伊佐治委員

親子のイベントはとても良いと思っている。育休中のママ、子育てが終わったら働きたいママもいる。子どもと楽しく遊ぶという内容のものだけでなく、そういったママを対象にしたプログラムをしていただきたい。

伊藤委員

後半の行動計画に他機関との連携として学校が入っている。学校関係の委員にお聞きしたいが、例えばYA向けのサービスをする時、高校へのアピールについては生徒さんに参加していただける工夫はできないか。

田中委員

学校単位で生徒が自主的に図書館活動を盛んにやっている学校へ話を持っていけばよいが、全県的に声をかけて動けるかと言うとそれは学校次第だと思われる。

伊藤委員

図書館と学校とのルートはあるのか。YAサービスについて、学校で図書館活動の中心となっている生徒さんを通じて別の学校の図書館委員とのつながりもできてくるのではないかと思う。

田中委員

そうなると思う。県立学校の場合は、高等学校教育課、生涯教育なら生涯学習課にこんなことをやりたい、と相談すると教育委員会の方から学校に対して投げかけていただけると思う。

中井委員

ヨッテコのことだが、音のコントロールが大切では。音は、ある人には許容できるが、ある人には許容できないことがある。賑やかな場所を作ると同時に静かな場所も作らないといけない。本当は吸音をした方が良く思う。難しいのであれば1階のイベントの音は天井にあたって2階の人にとってうるさいと思うので、静かに読めるコーナーをつくる、仕切りをする等、吸音を考えたほうがよい。私は書架は減らして席を作ったほうがよいと思っている。今後の改修時に検討して欲しい。

梶原委員長

音のコントロールに関しては、私の居る大学図書館でもマスクングシステムを利用して声を出せるところとじっくり勉強したいところが分けられている。

富田委員

紹介したいのだが、平成31年度高校生のビブリオバトルの愛知大会をやろうと思っている。初めて実施するので、見に来ていただきたいし、御意見もいただきたい。

伊藤委員

ビブリオバトルは本学でも実施している。

岡田委員

来年6月の学校図書館の高校部会の総会を安城市のアンフォーレで開催する予定である。昨年8月にも県の学校図書館大会をアンフォーレで開催した。ヤングアダルトなど特徴的な取り組みを紹介したいと思っている。

小林委員

名古屋市図書館では図書館で働く人の募集が数十人単位で行われたようである。同じ地域の図書館に係る動きは注視したほうがよいと思う。

梶原委員長

多くの意見ありがとうございました。皆様からのご協力により無事終了できたことに感謝申し上げます。

館長

みなさんからいただいた貴重な御意見は、今後の当館の運営に反映させて参りたい。今日に限らずお気づきの点があれば御意見いただきたい。

【閉会】